

新型コロナウイルス 県内初確認



那覇港に停泊していたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」＝2月1日、那覇港

60代女性タクシ―運転手 クルーズ船客が利用

観察対象の一人

沖縄県衛生環境研究所が新型コロナウイルスの感染疑いがある患者をウイルス検査していた件で、沖縄県は14日、県内在住の60代の女性の感染を確認した。県幹部が明らかにした。沖縄での感染確認は初めて。患者は集団感染が確認されたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の乗客が利用したタクシ―運転手で、県が健康観察していた1人だった。玉城デニー知事が14日夕にも県民に注意を呼び掛ける。

クルーズ船は2月1日に那覇に寄港し乗客約2600人の多くが下船し、観光や市街地に出掛けたとみられる。クルーズ船での感染確認を受け、沖縄県は乗客との接触が否定できない観光バスの運転手やタクシ―運転手ら約200人を特定し、健康観察を続けてきた。うち1人が病院を受診し呼吸器症状を訴え肺炎の疑いがあり、医師と相談して検査の必要性を判断したという。これまで特定した約200人のうち症状を訴えた人は初めて。

沖縄県は、渡航歴がなくても発熱や呼吸器症状があり、肺炎の症状がみられるなどした患者6人についてこれまでウイルス検査を実施してきた。結果は全員が陰性で公表はしていなかった。